

# ごめんね へたで

by **Kazutaro FUKUSAKI**

なんか、あれですね、久しぶりというか、まだ生きてたのとか……。

失礼しちゃうな。まあ、しかし、あれだからね。前に出てきたのが……、確か5月号だから。そう言われても仕方がないかな。

なにしてたんです。5カ月も。

実は、月の研究をしていたのだ。……玉突ではないぞ。MOONだ。

レベッカの？ なんちゃって。

なんだい、それ？ まあいいとして。5月号に乗せた絵の中でね、月がちょこっと描いてあったでしょ。あれが問題でね。

夕方、西の空に右側の欠けた上弦の月が出るかという……。

出ないの？

月がね、太陽の道筋と全然関係ないところを通るなら、出るんだけどね。月の通り道は太陽の通り道とほぼ同じなんだ。すると、一般的には夕方、西の空に出る月は、右側よりはどちらかと言うと、左側の欠けた上弦の月になるわけなんだわ。で、おそらく現実には、日没直後はもっと細い月であるはずなんだな。

とまあ、こんな事を調べるために5カ月もかかったんだな。研究を始めると面白いもんでね。おかげで、月についてはもうエキスパートだよ。

きみ、太陽系を真上から見たら、月はどんな風に運動しているか、知ってる？

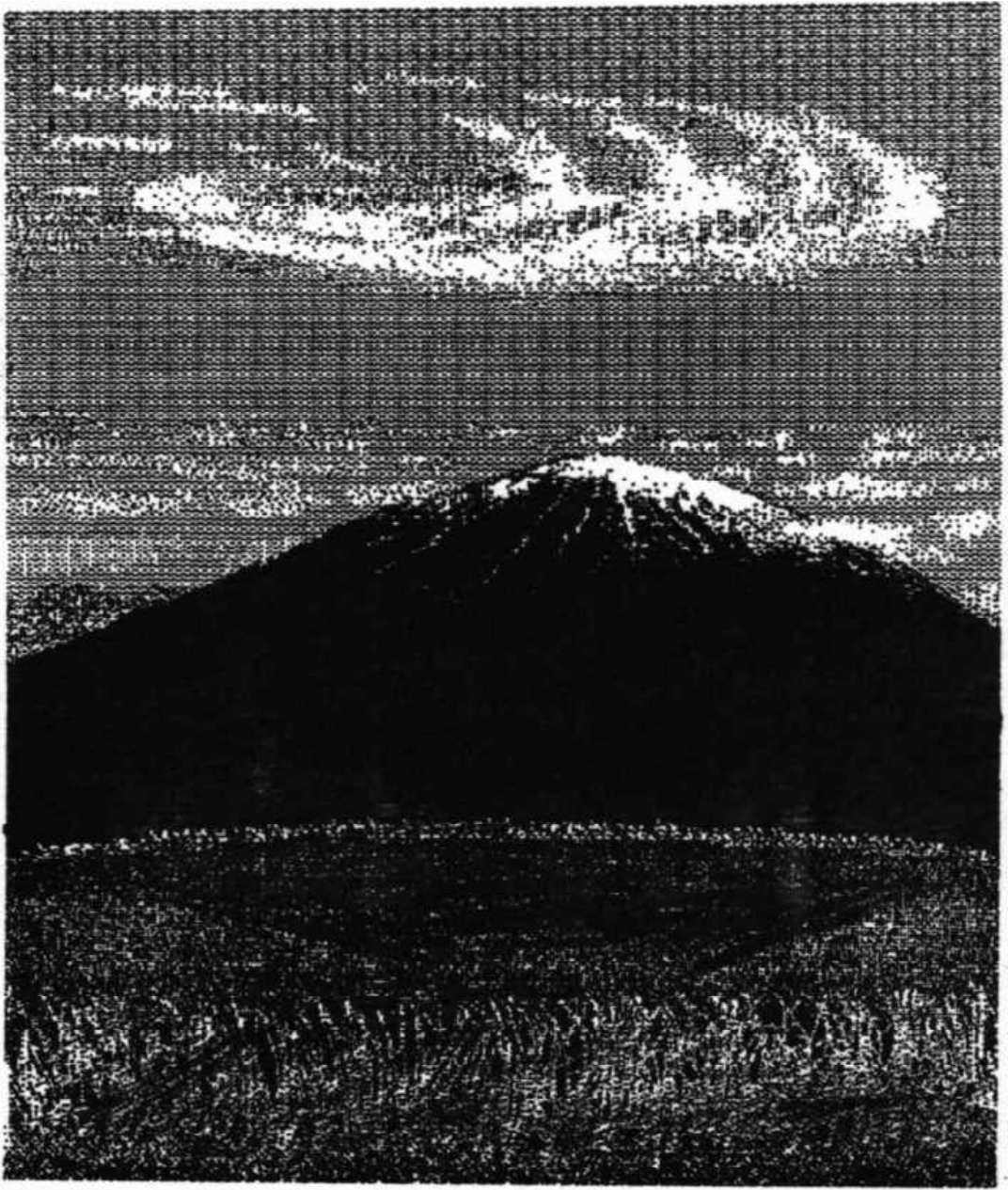
あの、お絵描きの方は……？

あ？ ああ。もう、やめた！

……という事で、今回で最終回とさせていただきます。

印刷職人の方々の手を煩わし、折り姫の方々の手を汚してきた悪名高き連載は今月で終わりです。皆様、ご苦労さまでした。

現在の私の一番の心配事は、読者の皆様のお目に差し障りがあったのではありませんか、という事であります。如何でありましょうか？



第5回 池のほとりであゆたう雲をみる